

## 日光市公共施設適正化推進市民委員会会議録

件名	第8回日光市公共施設適正化推進市民委員会会議		
日時	令和2年7月20日 14:00～15:15	作成日	令和2年7月22日
場所	日光市役所 本庁舎2階 中会議室202	記録者	資産経営課 加藤
<b>出席者</b>			
<日光市> 安西財務部長 小林資産経営課長 星資産経営課長補佐 資産経営課公共施設マネジメント係職員		<市民委員会メンバー> (出席委員、アドバイザー名簿別紙) ※アドバイザーはオンラインでの参加  (敬称略)	
<b>議事内容</b>			
<p>■配布資料          第8回市民委員会資料 資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料2-1、資料2-2</p> <p>■議事録</p> <p>1. 開会 ～事務局による挨拶～</p> <p>2. 委嘱状交付 ～新型コロナウイルス感染予防対策による会議短縮のため省略～</p> <p>3. 副市長挨拶 ～副市長公務のため、安西部長による挨拶～</p> <p>「ただいまお話にありましたように副市長が他の会議と重なっておりまして、出席できませんので、部長の安西と申しますが、代わって挨拶を述べさせていただきたいと思っております。委員の皆様には日頃より市政各般に渡りご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。また、今回は、市民委員会の委員をお引き受けいただき誠にありがとうございます。重ねて御礼申し上げます。</p> <p>また、今回オンラインでの参加になりますが、三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティングの西尾先生におかれましては、引き続きのアドバイザーの就任、よろしく願いいたします。今期も適切なお助言を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>さて、日光市の現状であります。日光市は現在600以上の公共施設があります。これは他の市町村と比べて非常に多い状況となっております。そしてその多くは老朽化し、大規模改修や更新が必要な状態となっております。</p> <p>その一方で、全国的にそうなのですが、日光市は、少子高齢化が進んでおります。年間に生まれる子供の数が約450人程度とかなり少ない状況で、一方で、年間に人口減少が急激に進んでおりまして、昨年度は1年間で1,200人程度、月平均100人程度の人口減少が急激に進んでいる状況であります。</p> <p>そこに加えて、市町村合併に伴って国からの財政支援というものがあつたのですが、これがどんどん縮小して数億円規模で財源がなくなっていくそんな現状にあります。政策全般の見直しが必要な中で、先ほど申し上げました公共施設、これを現状のまま維持していくことが困難な状況であります。</p> <p>そうしたことを踏まえまして、市では、平成27年度に「公共施設マネジメント計画」を策定し、翌28年度に本日もお配りしておりますが「公共施設マネジメント計画実行計画」を策定し、公共施設の適正化に取り組んでいるところであります。第1期の実行計画、昨年度の令和元年度で前半の4年が経過いたしました。その中でモデルケースとして、各合併前の市町村の庁舎、これを行政センターとして建替えを行いました。その時に複合化することで全体の縮小を図るということをやっております。また、藤原地域においては4つの公立の保育園がございましたが、これを2つに統合、更に民営化ということに取り組んでまいりました。そして、文化会館等につきましては、日光地域・藤原地域に市民の方々による専門部会を設置し、検討を進めていただき、日光地域については、提言書という形でまとめていただき、藤原地域はコロナの関係で中断してございましたが、先月また再開して専門部会の検討を始めたところであります。</p> <p>それ以外にも学校の統廃合等、他の施設についてもそれぞれの所管部署において公共施設の適正化を進</p>			

## 議事内容

めているところであります。

公共施設の適正化というのは、先程も申し上げましたが、行財政改革の最重要課題であると認識しております。と同時に、その推進のためには、市民の方のご理解・ご協力が必要不可欠であります。市といたしましては、わかりやすい情報提供に努め、情報の共有化を市民の皆様と図っていきたい。そんな風に考えておりますので、どうか市民委員会の委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。よろしくお願ひいたします。」

## 4. 委員・アドバイザー紹介

- ・出席委員の紹介
- ・アドバイザーの紹介並びに挨拶
- ・事務局自己紹介

## 5. 委員長・副委員長選任

- ・委員長・副委員長の選出について、事務局一任との意見があったことから、事務局案として、委員長に自治会連合会副会長岸野委員に、副委員長に公募委員の稲垣委員を推薦、全会一致で決定。

## 6. 議 事

## ○岸野委員長挨拶

「ただ今委員長にご指名いただきました岸野でございます。先ほど色々ご説明がありましたけれども公共施設というのは、いわば市民の財産かなと思っております。その適正化ということで皆様のお知恵を拝借していきたいと思ひます。皆様、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。」

## ○稲垣副委員長挨拶

「ただ今副委員長にご推挙いただきまして、更に身の引き締まる思いでございます。日光市の財政につきましては、令和9年度を境に赤字に転落する可能性があるということが示されております。また今般のコロナウイルス感染症の関係で税収がますます減っていくのではないかなど危惧されておりますが、市では、これまで長期間に渡り個々の実態把握から計画の策定まで膨大作業をしていただきましたことにまずは敬意を表したいと思ひます。

私たちの子供達、孫達に極力負担を残さないように、目的を見失わず、常に原点に戻って将来を見据えて、会議に臨みたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。」

## ○委員長

「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。」

## (1) 公共施設適正化推進市民委員会の役割について

事務局より、資料1-1、資料1-2、資料1-3を用いて説明。

## ○委員長

「ただいまの説明内容につきましてご質問、ご意見等がございましたらお願ひ致します。」

—委員からの質問意見なし—

## ○委員長

「ご質問やご意見等ないので、では、西尾先生から何かありましたらよろしくお願ひいたします。」

—西尾アドバイザーからの質問意見なし—

## 議事内容

## ○委員長

「ご質問、ご意見等がないようですので、公共施設適正化推進市民委員会の役割については以上といたします。」

## ○委員長

「では、次に（２）公共施設マネジメントの取組みと日光市の現状課題につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。」

- （２）公共施設マネジメントの取組みと日光市の現状課題について  
事務局より、資料２－１、資料２－２を用いて説明。

## ○委員長

「事務局からの説明が終わりましたので、只今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。」

## ○委員 1

「沢山の資料、市の方で作っていただいていた大変よくわかりました。ありがとうございました。１つだけ質問なのですが、資料２－１と大きい資料１－３、これを見て質問があります。まず、資料２－１の２ページと３ページの円グラフを見ますと、オレンジの部分着手検討・事業が非常に多く占めていて、今後は、市も民間と協力をして取組みをすすめていくということで期待しております。

次に資料１－３の７８、７９ページのところの黄色に囲ってある「公民連携手法による事業の検討」「ホール機能を今市文化会館に集約し、大規模改修のうえ長寿命化を図り存続」という部分が気になっていまして、特に７８ページの「公民連携手法による事業の検討」について、日光市藤原にある駅前の文化会館は、観光地として建物を解体して跡地活用は文化会館でいくのか、民間で運営する施設でいくのかしっかり見極めた方がいいと思います。仕事の関係で藤原に６年間勤務していたのですが、あの面積で立地条件は駅の前だからいいということもあるでしょうけれども集会はホテルで開くこともできますし十分な施設はあるので、観光地ということで、企業に活用してもらおう方がよいのかということも具体的に考えていった方がいいと思います。

市はどういった形であの建物を残すのか改修していくのか、壊して跡地活用にするとしても用途の区分をどのようにしていくのか見極めて、考えていってほしいと思っています。」

## ○委員長

「藤原の方は、専門部会の方で色々と議論を進めているのと思うのですが、事務局から何かありましたら説明をお願いします。」

## ○事務局

「事務局の方からお話させていただきたいと思います。マネジメント計画実行計画の中でモデル事業として、市内にあります３つの会館、これをまずどうにかしていきましょうということが１つございます。まず大きく２段階に分けていまして、まずステップ１としまして、日光の会館と藤原の会館、そこが耐震化もされていないということもございまして、そこをまず廃止・休止という形をとった後で、日光総合会館と藤原文化会館については、それぞれの跡地活用を考えていきましょうということがステップ１となります。そうは言いつつも今市文化会館も相当古いという中で、ステップ２として、今市文化会館についても今後どういう風にしていくか、改修して使うのか建て替えて使うのか検討していきましょうという風に大きく２段階に分けておりますことをまずはご理解ください。

現在、第一段階としての日光と藤原について、それぞれどういう風にしていきましょうかということで、それぞれの地域、日光でいえば日光地域に日光総合会館の検討専門部会というものを立ち上げ、藤原地域についても同様に地元の人たちによる専門部会を立ち上げ、検討を進めているところです。

日光につきましては、本日いらっしゃいます岸野委員長が部会長という位置づけでございまし

## 議事内容

て、日光の専門部会につきましては、意見をまとめていただきまして、提言書という形で市の方にその跡地にはこういうものを検討して欲しい、作って欲しい、検討して欲しいというものを既にいただいているところでございます。現在、その提言書にありました内容をサウンディング型市場調査といまして、民間企業にこういった事業をすることが可能かどうかといった調査をかけた段階でございます。今後、その結果をもとに実際に事業化をしていくための方針を作って事業化に向けて検討するというようなのが大きな流れでございます。ただサウンディングまでは終わったのですが、ご案内のとおりコロナの影響で民間事業者の元気がなくなっているといえますか、市の事業になかなか手が出せない状況となっておりますので、整備方針を策定する前の段階で少し歩みが遅くなっている状況と言いますか、少しスローダウンしている状況でして、その事業方針をどういった形かで整理していく段階となっているのが日光地域です。

今、お話がありました藤原の方については、日光と同様の専門部会を設置して市民の方にご教示いただいておりますが、藤原の方は、提言書の提出という形まで至っていません。至らない中でずっと検討を進めてまいりました。あそこにどういったものを作っていったらよいのかということや地元の観光関係の方、駅前関係の方等々に参加していただきまして、議論を重ねているところでございます。現状として申し上げますと大きくは、公益的な施設と収益的な施設を複合化した施設が作れないかというところで現在は話が進んでおりますが、具体的にあそこにこのような施設を作りましょうということは決まってはございません。要望としては、市民活動が発表できる場として機能できる施設があった方がいいのではないかとということと駅前という立地を活かした収益的な施設、商業的な施設もあった方がいいのではないかとということまで話は進んでおります。引き続き、そちらにつきましては、市民委員の皆様と検討していくということになっております。こちらにつきましてもコロナの影響がありまして、やはり民間事業者様の方で参入するということも少し厳しくなっているような状況の中ですので、少し時間がかかるかもしれませんが、跡地利用につきましては、より有効なものを検討していきましょうというところで今のところは話が進んでいるところでございます。説明が長くなってしまいましたが、私からの説明は以上とさせていただきます。」

## ○委員 1

「ありがとうございます。事務局のご説明にあったどちらの方向になるにせよ、免震、耐震の話になりますが、日光総合会館も藤原総合文化会館の建物は耐震になっていないのですよね。あれらは、相当な大きさなのでお金をかけないと建物を維持していけないと思います。あのままだと災害時に耐えられないということもありますので、1つ提案なのですが、ランニングコストも考えると、一度休止して、耐震の検討をしていった方がよいと思います。」

## ○事務局

「事務局から少し説明させていただきます。日光総合会館、藤原総合文化会館の両方の建屋とも相当な年数が経っておりまして、文化施設としての耐震基準でIS値という値があるのですが、文化施設としての基準が0.75なのですが、日光は0.65で藤原は0.4ということで基準を大きく下回っている状況です。その耐震基準を満たすためには、やはりお金もかかりますし、利用状況を考えたときに専門部会の中で日光につきましては、指定管理期間が終わる今年度いっぱいまで廃止、藤原につきましては、今年4月から休止をしている状況です。藤原の情報センターは、耐震化しているのでここだけは動いていますが、それ以外は休止しております。以上です。」

## ○委員 1

「わかりました。ありがとうございます。」

## ○委員長

「他にご質問やご意見等ございませんでしょうか。」

## ○委員 2

「1点だけお伺いいたします。公共施設マネジメント計画実行計画で令和35年度末までに全体の施設量を32%削減という形で設定していますが、第1期では令和5年度までに今回の計画の見直しで、そのうちの27%、22%から5%上積みして削減しなくてはいけないということ

## 議事内容

で、最初に大幅に削減してしまいましょうといった壮大な目標を掲げています。資料2-1を見ますと令和2年4月時点の実績で、全体の目標を100として28%の進捗でございます。第1期は令和5年度末までということで、残り4年弱で残りの72%を達成しなくてはならないこととなります。資料の円グラフを見ますと、大部分が事業着手、検討をしていますのでこれが実になっていくのだなとは思っていますが、役所としてこの目標を達成するための秘策は何かあったりするのかわかる範囲で構いませんので、教えていただきたいです。」

## ○事務局

「まず、マネジメント実行計画を進めるにあたって、少し言葉が悪いですが、種まきの期間が必要だと思っております。話をもち出して、その話を検討して果実として刈り取るというような、検討の期間がどのくらいとれるかどうかというところが必要になってくるのだと思います。前半の4年間は、種まきの期間から収穫の期間まで、短い種まきの期間で収穫できたものが28%とご理解いただけたらと思います。前半の4年間で種をまいて検討を進めているのが、資料2-1の円グラフのオレンジ色部分ということでご理解いただければと思います。後半の4年間であとはどのくらい刈り取れるかというところですが、ご質問にありました秘策というものは正直、無いと思っております。ここはもう間違いなく地道に着実に一つ一つうちのマネジメントの担当だけではなく、全庁的にそれぞれ施設を所管している課が地道にいくしかないのかなと思っております。今、取組んでいるものとして、積極的に進めているのが資料2-1の3ページの⑩集会所等施設でして、こちらは地域振興課が栗山・足尾にあります市が設置している集会所等について、地元に移譲できないかということで、相当積極的に動いてくれています。そういうところが後半の4年間で形として見えてくるといいかなと思っております。公民連携の手法が今回のコロナの関係でどれくらい足踏みをしてしまうのかという不安なところもなくはないのですが、そうは言いつつも一つ一つをしっかりと丁寧に各担当が進めていくことが、結果一番の近道ではないかと理解をして今進めているところでございます。答えになっていないかもしれませんが、以上です。」

## ○委員2

「わかりました。ありがとうございます。」

## ○委員長

「他にご質問やご意見等ございませんでしょうか。」

## ○委員3

「学校の統廃合関係で、資料1-3のところに日光中学校と安良沢小学校と清滝小学校の施設再編ということで計画に載っていますが、現実問題として、確か一昨年は、清滝小学校から日光中学校にあがってくる児童は0でした。また、清滝小学校から日光中学校に入学せずに東中学校に入学する児童もおりまして、現状といたしましては、今、日光中学校は3分の1以上が宇都宮・鹿沼から来ているアイスホッケー関係の子供達で成り立っているような状況です。この統廃合の話をついたときに、現実問題3つの学校が統廃合しても児童数が維持できるのかということで課題を投げ返したのですが、実際にもう一度学校の状況や地域の状況が変化して枠組みが有効かどうかという話になった場合、計画の内容も変わってしまうことはあるのでしょうか。」

## ○事務局

「小中学校につきましては、まず、基本的に学校教育課というところが中心になって進めております。そちらの方で【小中学校の適正化に向けた基本的な考え方】というものを作って実行しているところです。ただ、やはりこれから先の状況の変化によって随時見直しをしていくとうちの課では理解しております。1回作ったからそれで必ず決まりですという話ではなくて、状況に応じて臨機応変に対応していくということで理解しております。」

## ○委員3

「わかりました。ありがとうございます。」

## 議事内容

## ○委員長

「私も日光なものですから、市に少し伺いたいのですが、小中学校で特に日光中学校のあり方等が非常に問題になっていると思うのですが、中学校とともに近くの高校非常に密接に絡み合ってくるのかなと思うのですが、市は高校のあり方については、連携とかどのように考えているのかお伺いしたいです。全く別に動いているのでしょうか。」

## ○事務局

「高校につきましては、ご存じの通り県立ということで、市としては存続廃止について手が出せる話ではないものと考えております。ただ、市としましては、日光明峰高校について、何とか子供達を集めて存続させたいというところで、今、総合政策課を中心にその取組みを進めているところでございます。マネジメントの視点から見ますと、高校と小中といたしますとどうしても市立と県立という差でどうしても線を引かざるを得ないという部分はありますけれども中学生が当然高校生になりますので、その連動性といいますか、小中学校は学校教育課の中で、市全体の日光明峰高校の支援のあり方も視野に入れて検討していくのかなという理解の仕方をしていっていただきたいと思います。」

## ○委員長

「わかりました。ありがとうございます。」

## ○委員 1

「最近、高校生が地域に貢献するような内容が新聞で取り上げられていたので、ハコモノ関係の運用にもぜひ、子供達の将来もありますので地域密着型の施設として、あり方を検討していただけると幸いです。」

## ○事務局

「施設としての面はあくまでも県立高校というような位置づけですので、市としてのハコモノとしての扱いはしておりません。ただ、そうは言いつつも学校の取組みというのは先ほどの日光明峰高校の例をあげましても市として何らかの形として支援ができないかというところで動いておりますので、そういったところはうちの課というよりも市全体でそれぞれの所管する課が、適切に対応していく方向で動いておりますのでご理解いただけますと幸いです。」

## ○委員 4

「資料 2-1 についてですが、円グラフで非常に見やすくまとめられていて、事務局の方、大変ご苦労されたのではないかと思います。円グラフはパッと見ることができ、とてもわかりやすいので、逆に気になってしまったところが 1 点ありまして、⑤放課後児童クラブの未着手が他の施設に比べてとても多いので、放課後児童クラブは民間委託もしてると思いますので比較的扱いやすいかなとも思うのですが、逆に未着手が多かったものですから、何か理由があるのか知りたくて質問をさせていただきます。」

## ○事務局

「放課後児童クラブにつきましては、青の未着手部分が多いのは、放課後児童クラブというものはどうしても小中学校の統廃合に引きずられてしまうので、小中学校の再編の話がある程度動かないと放課後児童クラブの検討すらできない状況ということで、保育園の一部もそうなのですが、小中学校の検討に合わせて、少しずつ放課後児童クラブや保育園の検討が始まるということで、現状としては放課後児童クラブの未着手が多くなっているということでございます。」

## ○委員 4

「了解しました。」

## 議事内容

## ○委員長

「集会所についてお伺いしたいのですが、栗山・足尾地域は非常に数が多いということで、実際問題、地形的なものがある、栗山で集約とか考えますと、なかなか大変だと思うのですが、どのような検討状況になっているのかお聞きしたいです。」

## ○事務局

「今、地域振興課がそれぞれの自治会が持っている集会所をそれぞれの自治会に必要な改修をしたうえで譲渡をするという方向で基本的に動いています。自治会によっては相当規模が小さくなっていて集会所自体持つことができないということもあります。例えば1つの自治会で10軒しかなくて集会所を持ちきれないという場合は、集会所として廃止する等検討しております。また、そういった場合は、隣の集会所と集約化を考えて使っていったらどうでしょうかといった検討のお願いもしているところでございます。いくつかの自治会からは譲渡を受けるというところで話が進んでいるところでございます。」

## ○委員長

「そうですね。事務局のおっしゃるとおり確かに自治会単位も小さいものもありますので、とてもじゃないけど数軒で1つのものを維持していくのは少し無理があると思います。やはりその辺は、地元が了解すれば廃止するという方向になっていくのですね。」

## ○事務局

「はい。廃止・集約化ということになります。また一応、5年の猶予期間ということで検討期間を設けまして、自治会の皆様に検討していただいているところでございます。」

## ○委員長

「わかりました。」

## ○委員長

「他にご質問やご意見等ございませんでしょうか。無いようでしたら、西尾先生に何かありましたらご意見いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。」

## ○西尾アドバイザー

「今回、第1期の実行計画の中間見直しが終わって、後半に入ってくということなので、前半の計画を振り返ってそれを踏まえて、後半どう取り組んでいくかというところを考えて、それを市民として見ていくということが重要ではないかと思っております。」

「何点か申し上げたいのですが、まず1点、前半でどれくらいの目標達成ができたかという、28%という数字が出ています。ということは、後半でこれを挽回するということは、前半のペースで考えると2.5倍のペースで後半は取り組んでいかないと第1期の目標達成ができないということになりますので、それだけスピード感を持って取り組んでいくことが必要なのかなと感じております。事務局で種まきと収穫という言い方をされていまして、まさにそのとおりだと思っておりますが、資料の2-1で円グラフをお示しいただいておりまして、事業検討するとオレンジ色になりそれを着手するとグレーで、完了になると黄色になるということで、これを黄色にすることで数字が計上されるということですので、それをいかにオレンジ色をグレーにしていくか、グレーを黄色にしていくかということを考えながら取り組んでいく必要があるのかなと思います。文化会館も検討のオレンジ色100%になっていますが、これがグレー、黄色と進んで、目標に貢献していくということになりますし、先ほどの放課後児童クラブについても小中学校の進捗に合わせて進めていくということで、当然地道にやっていくしかないのですけれども、ある程度スピード感も考えながら取り組んでいく必要があるのかなと思います。」

「それから、2点目として、前半の計画の実績について検証していますけれども財政的にこれだけ効果があったよとか、建物としてはこういうような工夫ができたよという検証があったのですが、それだけではなくて、実際に複合化等をしてどうなったのかというところで、元々、公共サービスを充実させるために公共施設があるとのことですので、実際やってみたらこんな効果があ

## 議事内容

ったよというのがあると良いと思います。例えば、小来川地区では地域の特色ですとかまちづくりの議論が進んだとかそういった効果があると思いますので、どれくらいまちづくりという観点や公共サービスという観点でどのような効果があったのか、あるいは課題が出たのかということを検証しながら、これはモデルケースですので、他のケースに活かしていければと思います。

それから3点目ですけれども、前半の取組みで元々の公共施設マネジメント計画の取組みの目的の1つである施設における安心安全、つまり保全の取組みもどれくらい進んでいるかの検証もできないかなと思います。委員さんからも耐震のご指摘がありましたけれども、実際、市として計画している建物の手入れや保全が計画どおり進んでいるのかどうか、例えば他の自治体ですと、思ったよりも保全の経費がかかっているとか単価が元々想定したよりも上がっているねというような検証があったりですとか、あるいは逆にそこまでのお金をかけなくても保全できていることがわかったケースがあったりしますので、実際建物が安心安全に保たれているのかどうかの進捗状況の検証も必要かなと思いました。以上です。」

## ○委員長

「ありがとうございました。」

## ○委員長

「以上で、本日用意された議題につきましては、終了とさせていただきます。進行につきましては事務局にお返しいたします。」

## ○事務局

「ありがとうございました。次第のその他の事項について、1件ご案内させていただきます。」

## 7. その他

- ・事務局より次の開催時期について事務連絡。

## ○事務局

「では、以上を持ちまして第8回公共施設適正化推進市民委員会を終了させていただきます。」

以上